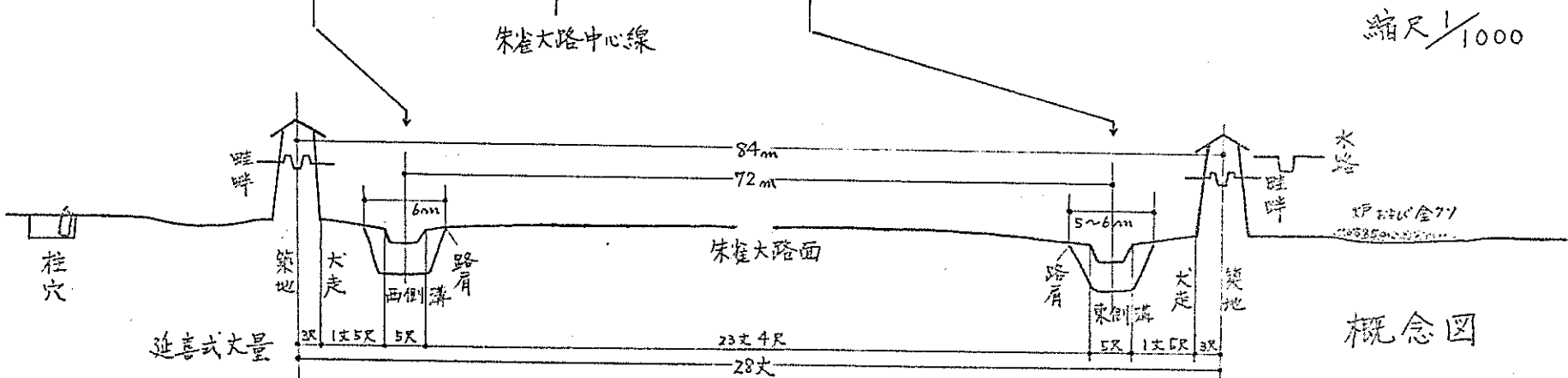
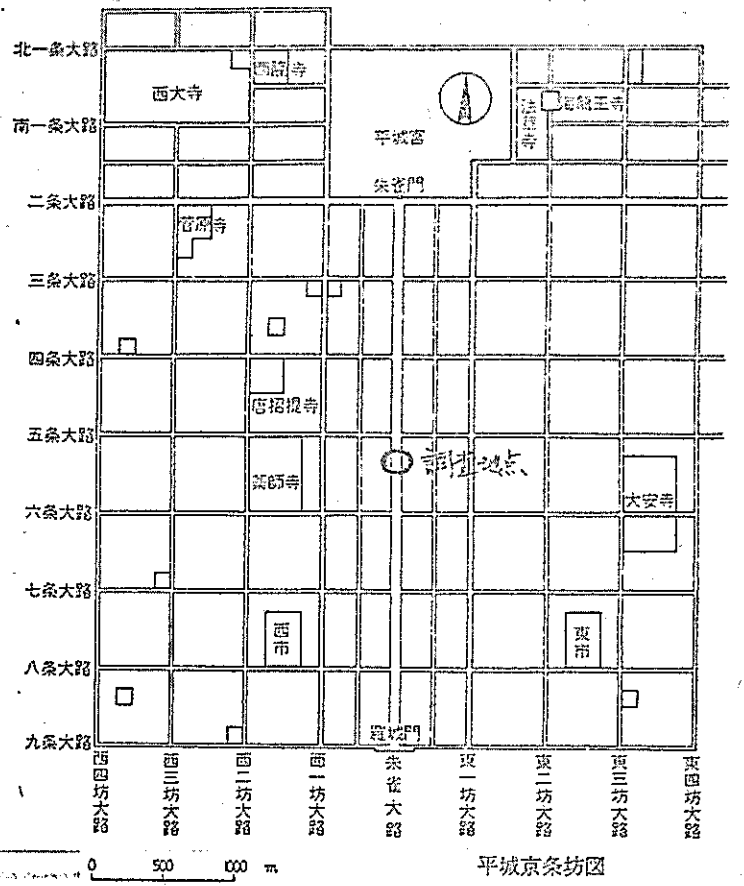


朱雀大路確認調査現地説明会資料

朱雀大路の幅を確かめるべくおこなった今回の発掘調査は、京の五条と六条の間で、南北約80mの間隔において、北と南に東西トレンチを設定しておこなった。北の大路を含むトレンチ(市有地)東端近くで南北に通る東側溝を検出した。溝は赤坂りで上幅が5~6m、深さは約1m強ある。側溝西側の大路面は、バラス敷きなどは見当らず、若干の瓦片が散乱するのみである。路面から側溝へは徐々に下る傾斜をもつ移行し、路肩には何らの施設も見出し得なかった。側溝東側は、溝の西肩より40~50cm高く、そのには本来溝に平行する築地があったと考えられるところであるが、今回はその痕跡も見出せなかった。この付近には数ヶ所の土坑があり、金ツリ、炭化物、焼けた土に土塊等が捨て込まれたり、また周囲に散乱しており、現水路をはずした東側の発掘区も同様でこのあたりにカシ屋跡のあったことが考えられる。竹炭製の釘型残片も出土している。一方朱雀大路西側溝を知る目的で調査中の南トレンチでは、現在の南北畦と水路東側の発掘区西端近くで南北に通る西側溝を、南端には掘りつくるしきりみと発見した。なお西トレンチ内に発見した柱穴は、そのプランなどは不明である。



概念図